

人間の病み、わずらい、悩み、苦しみは、
中心を遠ざかっていることを天が教えられているのである
大宇宙の中心、一家一身の中心は何か、これをはつきり
掴むことが、人類生存の尊い唯一の道である

人間を中心

人間を中心はその人の心である

人相、手相、運命、いふ言いが心そのままに
うつろい出されている

中心ということは、自分からたよらないという事だよ

節ふしを生かす

不幸や災難は人生の節ふしである節ふしを生かして
生き節ふしにする人もある節ふしに碎くだけて死しに節ふしに
する人もある要は人間の日頃ひぐらの生なき方と
心掛こころかけによる

感心の種たね

人をやるほどと思わせようと思つてはいけな
自分がやるほどなるほどと思つただけ感心した
だけ、人にやるほどと思つてもらえる種たねが出来る

才二、才三の人生を築く

失ったものを惜しんでも返ってほこばい

それを求めたら愚痴にちる残されたものを生かせ

この足らざるを補う生き方こそ才二、才三の人生

を築く道とちる

泣く人の涙をふいてあげなさい
人の心に光をつけてあげなさい

名。ピッチャー

ねじれた、むつわしい夕マを投げるのが名。ピッチャーである
その夕マに見事に合わせてホームランとがる

人間にもびびわくれた、むつわしい人がいる、そんな人を見て気に
いらぬ人だ、合わせられないと云ったら見逃し云振 合わせ
にくい人に見事に合わせてホームランとがる相手に合わせる
勉強だよ 相手を名。ピッチャーだと思えばいいんだよ

人という字は支えあっている状態をあらわし
人間とは人と人とのあいだからを大切にせよと
教えている

根強い運命

自分の敵になるもの、邪魔するもの、これに対決する構えは疲れやすい、いつかを包むべきである。すがたに親しむのである。この心こそ尊い。将来の根強い運命をつくる。

二大政党

二大政党の争は政策のみが合点でありたい
政权奪い合いの泥試合は国民の迷惑
自分の党利より、国民の利益を第一に考える
ことが天地の道である

人を変えようと思つてはわけがないよ
自分が変わればいいんだよ
わけがないよ

経営のけじめ

どんなにもうかるからといふでも道に外れたことをして
もうけてはならない。又どんなに苦勞が多くても
世のため人のためにやらなければいけないことがある。
企業の経営に携わる者は、この二点をしるふに心に
留めておくべきである。

腹八分目に医者いらすと云う

もうけ過ぎ、とり込み過ぎ、貯め過ぎ、
これは運命を不健康にする

向上の道

心が上がれば運命はぐらつく
運命は下り坂である
心が下がれば身が上がる
向上の道である

幸福な家庭

人間の命の種、これは祖先である根は親、我々
は幹、子孫は枝にあたる

幸福な家庭の姿が見たい、それなら種を大切に、
根を喜ばせるほかはない

右が我が身、我が家、我が子、我がことならば、
左が社会のため、親のため、恩人のため、どちらにも
傾かない、これがバランスをとる中心の道である

ゆり戻しもどの世界

この世は波である。電波、音波、光波、心臓の脈も
波である。上がただけ下がりに、下がただけ上がる
人生は自分の言動のゆり戻しもどの世界である。

写し鏡

自分の徳、不徳、運、不運の姿が、親に映り、夫に
映り、妻に映り、子に映り、友人に映り、自分の
本体を知るように、反射して又、自分の方に返ってくる

頂いたもの(給料、報酬、儲け)は自分の汗と涙の結晶
であるけれどその中には国の御恩、社会の御恩、先祖
の御恩、親の御恩、師の御恩も入っている。

その一部を世のため人のためにつくすという事は
この世に生せいを受けた人間として当然の道である。

生きている生命を奪って、あわれんでも感ぜぬ心は
幸せな運命にはつながらない

喜びの種たね

大自然の大法則は二つで、陰陽、右左、男女、すべて、
相対立の調和である。まず相手を喜び知らせる
そのために力も心も出し切る。これは次の自分の
喜びの種たねをうゑつけているのである。

人類の運命

全世界の基本となるもの、それは人間である
人間時代世界一家時代、もう愚かな対立にだまされて
ほならない、世界中の人は、自らをみがき合せて人の世の
幸せを増進させる、このほかに争いの相手なき平和な
世界をつくる道はない

反省の力

病氣、災難、失敗もすべて与えられるものは
人間に必要なものである

悩み、迷い、それから反省の力が生まれる
愚かから脱出する好機である

どんな災難でも一日一日心がけて心を清め
考え方を正して生きていたらたやすく受けられる

うそから出たまことという言葉もある
汚ない泥田から出た蓮はすの花もある
習慣、行為、行動が先である心の明るさは
その後、に生まれて来る

建設はかたく破壊はたやすい

短気は破壊に通じる忍耐は向上の基礎となる

この世の中心

天地自然、神仙、この世の真理

これがこの世の中心である

自分を守り過ぎる心が強い、そのために他人に
重い荷を持たせる、このずる、生々方をした魂の
人へのゆり戻しが大きき不幸とありあうことになる

悪因を絶つ道

因縁の因は種、縁はご縁、種があつても雨が降らなければ種枯れだろ

因があつても縁がなければ表れてはこない

良い習慣、良い癖、良い思い出を沢山作っていくことが悪因を絶つ道である

中心にもどる時

どんな不幸や病気、災難も解きほぐされる